「リサイクル・プラスチックごみ問題等」に関するアンケート　リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

　プラスチックは安価で使いやすいことから、私たちの生活において大きく依存したものとなっているが、一方で、不用意にごみとして捨てられるプラスチックなどが、河川などを通じて海へと運ばれ、海洋環境や生物に深刻な影響を与えている。大阪府では、大阪市とともに「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を行うなど、海洋等におけるプラスチックごみによる汚染の防止に向けた取組みを行っている。リサイクルやプラスチックごみの問題等の府民の考えや行動を調査し、今後の循環型社会の構築や海洋プラスチックごみの削減につながる取組みの検討資料とする。

1. 調査（検証）項目

①　リサイクル製品の購入意向のある府民の割合

②　資源物を分別している府民の割合

仮説１　海洋プラスチックごみ問題について、ある程度の理解や認識をしている人は、そうでない人に比べ、プラスチックごみのポイ捨てをしない。

また、ごみの分別やマイバッグを使用している。

（プラスチックごみが海洋生物などに与える影響やその要因を正しく認識することが、ポイ捨ての削減や資源物の分別の推進等に寄与する。）

1. 調査対象　国勢調査結果（平成27年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、18歳以上の大阪府民1,000サンプル
2. 質問項目

予備質問６問

ＳＣ1　性別

ＳＣ2　年齢

ＳＣ3　都道府県

ＳＣ4　居住地（市町村）

ＳＣ5　職業

ＳＣ6　婚姻状況

本質問　15問

Ｑ1　リサイクル製品の購入意向（ＳＡ）

Ｑ2　家庭での資源物の分別（ＳＡ）

Ｑ3　【Ｑ２で分別する】資源物を分別して出す場所（回収場所）（表組ＭＡ）

Ｑ4　外出先でのプラスチックごみの捨て方・ポイ捨ての有無（表組ＳＡ）

Ｑ5　プラスチックごみのポイ捨てを減らす環境整備（ＭＡ）

Ｑ6　海洋プラスチックごみの影響に関する認知（ＳＡ）

Ｑ7　海洋プラスチックごみの要因に関する認知（ＳＡ）

Ｑ8　プラスチック製ストロー不使用の取組みに関する考え（ＳＡ）

Ｑ9　現在のマイバッグ（エコバッグ）使用の状況確認（ＳＡ）

Q10　【Q9でマイバッグ使用】 マイバッグを使用する理由（MA）

Ｑ11　普段買い物をする店舗（ＭＡ）

Q12　レジ袋の有料化により困る店舗（買う側）（ＭＡ　上位3つ）

Q13　レジ袋の有料化で支払ってもよい袋代金（ＳＡ）

　　Q14　レジ袋の有料化時の支援（ＭＡ）

Q15　活用したいマイバッグの形・機能（ＭＡ　上位2つ）

５．検証方法

　仮説１　海洋プラスチックごみに関する影響・要因（Ｑ６・Ｑ７）の認知の程度別に、ポイ捨ての有無（Ｑ４）、ごみの分別の有無（Ｑ２）、マイバッグの有無（Ｑ９）を集計。